

『就実教育実践研究』第9巻 抜刷  
就実教育実践研究センター 2016年3月31日 発行

# 造形ワークショップ「こねーるらんど」の試み

Attempt at Planning and Running an Art Workshop  
"KONE ^RU LAND"

藤 田 知 里

# 造形ワークショップ「こねーるらんど」の試み

藤田知里（初等教育学科）

## Attempt at Planning and Running an Art Workshop "KONE ^RU LAND"

FUJITA, Chisato (Department of Elementary Education)

### 抄 録

本報告は、2015年5月23日（土）に開催された、子どもと保護者が造形活動を楽しむためのワークショップ「こねーるらんど」に関するものである。「こねーるらんど」は、就実大学初等教育学科4年生で図画工作・造形表現を研究している学生が自ら企画・運営を行ったもので、当日は10組22名の親子が参加し、粘土遊びを楽しんだ。内容は、①友だちいっぱいカエルくん、②みんなでこねこね、ねんど遊び、③発見！お気に入りねんど④小麦粉ねんどで遊ぼう！、である。このワークショップを通して、参加者した子どもには、テラコッタ粘土という材料を体験し、友だちやワークショップのリーダーである学生と関わりながら粘土遊びを体験する場を提供することができ、また、学生には、子どもの造形活動における指導や援助についてだけでなく、粘土の硬さと造形活動の関係について実践経験を通して体得する良い機会となった。

キーワード： 造形表現, 子ども, ワークショップ, 地域貢献

### I はじめに

粘土とは可塑性に富み、子どもでも自在に形態を変化させることが可能であり、自然素材としての感触も楽しむことができる身近な造形材料である。筆者は、家庭や学校園では得がたい、粘土によるダイナミックな造形活動を子どもに提供するため、学生が中心となって開催するワークショップを毎年開催してきた。その取り組みについては報告済みである。<sup>1)</sup>

「こねーるらんど」は、2015年5月23日（土）に開催された、子どもと保護者が造形活動を楽しむためのワークショップである。このワークショップは、就実大学初等教育学科4年生で図画工作・造形表現を研究している学生が自ら企画・運営を行ったもので、当日は10組22名（ワークショップ参加者11名、保護者10名、乳児1名）の親子が参加し、粘土遊びを楽しんだ。内容は、①友だちいっぱいカエルくん②みんなでこねこね、ねんど遊び、③発見！お気に入りねんど④小麦粉ねんどで遊ぼう！である。

## Ⅱ 「こねーらんど」への取り組みの経緯

### 1. ワークショップ開催の目的

ワークショップの目的は、①子どもが粘土という材料に親しみ、その硬さ軟らかさを体験し、感触を楽しむこと、②造形ワークショップの開催を通して、学生が造形に関する子どもたちへの指導あるいは援助について学ぶこと、の2点とした。

前年のワークショップでは、「子どもが粘土を成形するのに扱いやすい硬さ」を測定し、その数値を明らかにした。しかし、その「扱いやすい硬さ」とは、粘土で人形等をつくる場合に「適した硬さ」である。粘土遊びには様々な形があり、適した硬さも遊びによって異なる。子どもが扱いやすいとされた数値以外の硬さの粘土が子どもの粘土遊びに適していないわけではない。そのため、今回のワークショップでは、子どもが粘土を成形しやすい硬度の粘土を基準として、それよりも硬い粘土、軟らかい粘土の3種類の粘土を用意して子どもが自由に遊べるようなプログラムとした。したがって、③子どもの粘土遊びの様子を硬度別に観察する、ことも併せてワークショップの目的とした。

### 2. 開催までの準備

ワークショップに関する調査やプログラムの検討は、2014年度後期授業の終わりから始めた。ゼミナールで、前年度の第4回ワークショップを見直し、プログラムの内容について意見交換を重ね、計画を立てた。プログラムの中心となる活動については、「様々な硬さの粘土を体験し、その感触を楽しむ」ことをねらいとし、指導上の注意点、プログラムの時間配分、環境構成等について検討を重ねた。参加費としての材料費は、テラコッタ粘土や小麦粉粘土の1人あたりの使用量を概算し、その他消耗品を含めて決定した。

ワークショップの参加募集定員は、ワークショップのリーダーと補助を行う学生14名が責任を持って準備及び参加者の世話や指導を行うこと、また、会場となる教室の広さを考慮し、保護者と子どもで15組とした。

会場は昨年までと同様、適度な広さがあり、造形活動に必要な道具や設備が設置されている就実大学T館デザイン室とした。子ども用の机を10台、子ども用のスツールを15脚用意し、流しには踏み台を置いて、子どもが一人で手を洗える高さにした。

昨年度は、子どもが他の参加者と関わり一緒に活動に取り組めるように、作業機の配置も4つずつ2列に並べ、子どもが座る作業機と保護者席を分ける配置としたが、今年度は、ワークショップのリーダーがより子どもと関わりやすいように、子ども同士2人1組で1つの机に座ることができるよう、独立した配置とした。

その他、子どもの名札や案内看板等各プログラムに関する準備は、後出の資料①～⑥「アイデアカード」にて詳述されているため、参照されたい。

ワークショップは、参加募集定員が少数のため、広報はチラシのみで行い、子ども、保護者ともに汚れても構わない服装で参加するよう明記した。チラシの配布は、就実大学附

属就実こども園と、就実こども園にて毎週火曜日・木曜日に開催されている「親子ふれあいタイム」で行った。

開催前日には、4年生リーダー、補助の3年生で会場設営とリハーサルを行い、プログラムの流れを確認した。

### Ⅲ 「こねーるらんど」の実践内容

#### 1. 「こねーるらんど」の概要

「こねーるらんど」は以下のように実施された。

日 時 2015年5月23日（土）9時30分～11時30分

場 所 就実大学T館405デザイン室

対 象 幼児から小学校低学年児童（必ず保護者同伴のこと）

参加定員 子どもと保護者 15組

材 料 費 参加者一人当たり100円

プログラム

- ① 友だちいっぱいカエルくん
- ② みんなでこねこね、ねんど遊び
- ③ 発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—
- ④ 小麦粉ねんどで遊ぼう！

当日は、保護者と子ども10組、22名、ワークショッププログラム参加者（2歳児3名、3歳児2名、5歳児6名）、保護者10名、乳児（1歳児）1名の計22名が参加した。子どもと学生がコミュニケーションをとりながら作業を進めることができるよう、学生リーダーと補助は、1つの机に2人程度付くこととした。リーダーは4年生8名、補助として3年生6名が参加した。

プログラムに関しては『子どもから学ぶ保育活動「表現」<sup>2)</sup>、『粘土遊びの心理学<sup>3)</sup>を参考にしており、計画段階における「アイデアカード」、また事後の「活動報告」（資料①～⑥参照）は、昨年度に引き続き、子どもの造形ワークショップを広く手がけている和久洋三氏が作成したものを参考に使用している。<sup>4)</sup>各プログラムでは4年生の担当リーダーが進行にあたり、その他の学生が協力して活動を補助した。

#### 2. プログラムにおける各活動の概要

##### 1) プログラム前

ワークショップの受付は9時から始め、プログラムの開始前に来場した子どもが自由に遊ぶことができるように、小麦粉粘土、折り紙、画用紙、クレヨン等を準備しておいた。



写真1 ワークショップの導入



写真2 みんなでこねこね、ねんど遊び

## 2) 導入 (9時30分～9時40分)

ワークショップの導入では、挨拶に引き続き、今日の活動のお知らせ、リーダーの紹介を行なった。手遊び等を行い、活動の場の雰囲気を盛り上げ、次に続く活動へ子どもが期待を持てるようにした。また、保護者への挨拶等もこの時点で行なった。参加者はテラコッタ粘土を扱うことが初めての子どもがほとんどであったため、粘土に関する注意は、リーダーが制作した紙芝居を用いて丁寧に行なった。

## 3) 友だちいっぱいカエルくん (9時40分～10時00分)

会場の入口に、カタツムリとカエルが数匹付いている大きな葉のアーチを用意しておき、参加者の子どもに折り紙でカエルを折って仲間を増やすことを提案した。折り紙は、大(15cm×15cm)、中(11cm×11cm)、小(7cm×7cm)の3種類で、好きな色を子どもに選んでもらい、難しいところはリーダーが補助しながらカエルを折った。カエルが完成した子どもから、葉のアーチにテープで貼り付け、最後に皆で鑑賞した。

## 4) みんなでこねこね、ねんど遊び (10時00分～10時20分)

活動の始めに、日本ガイシ株式会社製の粘土硬度計による測定値3の粘土を1人500g配布した。この硬度は、昨年度のワークショップ内で測定し、子どもが最も扱いやすいと回答した粘土硬度の平均値、2.79を参考にしている。その結果、子どもたちは粘土を適度な硬さになるまで練る必要なく、すぐに粘土遊びに入ることができ、硬度3の粘土が子どもの握力にとって扱いやすい硬さであることを改めて確認できた。

リーダーの指導のもと、子どもたちは、まず粘土に指で好きなように「穴」を開け、続いて粘土を丸めた「だんご」、だんごを潰して平たくする「せんべい」、細長く紐状にする「へび」、高く積み上げる「とう」をつくり、ウォーミングアップを行なった。ここでのねらいは、粘土の造形活動を展開するための基礎的な技能を遊びながら学ぶことである。

上記の活動に加えて、だんごやへびの形を並べる、つなげる、重ねる、組み合わせる等、子どもが好きなように造形活動を発展させることができるよう、リーダーと補助の学生が



写真3 友だちいっぱいカエルくん



写真4 発見！お気に入りねんど いろいろな硬さのねんどを体験しよう（硬度3）

声をかけたり援助を行なったりした。粘土を積み上げる塔だけではなく、ひねり出すものや、ひも状につくったものを立たせる等それぞれが工夫をこらし、あるいは高くつくっている子どもの真似をしたり観察したりして、皆が自分なりの塔をつくることができた。つくったへびや塔には模様や顔を描き、個性的な作品ができた。

#### 5) 発見！お気に入りねんど いろいろな硬さのねんどを体験しよう（10時20分～11時20分）

ここからは、子どもが粘土を成形するのに扱いやすい硬さの粘土（硬度3）を基準として、それより硬い粘土（硬度5）、軟らかい粘土（硬度1以下）の3種類の粘土を用いた。活動の始めに、それぞれの粘土を子どもに触ったり、叩いたりしてもらって感触を確かめながら紹介した。その後、自由に子どもたちの好きな硬さの粘土で粘土遊びを楽しんだ。

##### ① 硬度3の粘土

昨年度の調査結果をもとに準備した子どもにとって扱いやすい硬さの粘土であり、活動のウォーミングアップとして行った「みんなでこねこねねんどあそび」でも用いた粘土である。子どもにとって抵抗なくすぐに何かをつくり始めることができたため、最も子どもに人気があり、常に数名の子どもが集まり粘土遊びを楽しんでいた。硬いもしくは軟らかすぎると言う子どもはいなかった。

##### ② 硬度5の粘土

硬い粘土のため、男児数名がパンチしたり、足で踏んだりして遊んでいる様子が見られた。また女児は、硬いと言いつつも粘土を練ることに取り組み、時間はかかったが、適度な硬さにしたのち、好きなように成形して遊んでいた。作品としては硬度3と同じような作品ができた。

##### ③ 硬度1以下の粘土

硬度1以下の粘土は、泥状のものである。多くの子どもが興味を持って集まり、粘土に手を入れると驚いて歓声をあげたり、泥絵の具のようにして絵を描いたりする子どももい



写真5 発見！お気に入りねんど —いろいろな硬さのねんどを体験しよう（硬度5）—



写真6 発見！お気に入りねんど —いろいろな硬さのねんどを体験しよう（硬度1以下）—

た。特に、まだ粘土で何かを成形するのが困難な年齢の子どもが、感触遊びとしてビー玉を探したり、足を粘土の中に入れてたりして楽しんでいた時間が長かったようである。その反面、手や服が汚れるため触るのを嫌がる子どももいた。今回使用したテラコッタ粘土には粒子の粗いものが混じていたため、手触りがあまり良くなかった。次回は、粘土の種類にもこだわりたい。

#### 6) 小麦粉ねんどで遊ぼう！

小麦粉粘土コーナーは、プログラム開始前から準備しておき、常にリーダーが待機して小麦粉粘土で遊びたい子どもは自由に遊ぶことができるようにしておいた。ワークショップの開始前はもちろんのこと、プログラムの間でも、テラコッタ粘土の活動に飽きてしまった子どもや、テラコッタ粘土より小麦粉粘土で遊ぶことを好んだ子どもが小麦粉粘土コーナーに集まり、粘土の感触を楽しみ、いろいろな形をつくって遊ぶことができた。特に2歳児のように年齢の低い子どもはテラコッタ粘土よりも小麦粉粘土を好んでいたようであった。

#### 7) プログラム後

ワークショップでは、造形遊び的な活動も多かったため、全員が作品として残るものを制作したわけではないが、できた作品は焼成温度800度で焼き、ワークショップから約1ヶ月後、参加者へ返却した。

### IV おわりに—取り組みの成果と課題—

#### 1. ワークショップの成果

前述のワークショップの目的から成果を検証するならば、①の点では、参加した子どもがそれぞれ異なる硬さの粘土で造形活動に取り組むことができたことから、子どもが粘土と



写真7 小麦粉ねんどコーナー



写真8 お絵かきコーナー

いう材料に親しみ、その硬さあるいは軟らかさを体験し、その感触を楽しむという目的は達成できたと考える。また、教育・保育の専門職に就くことを目指す学生が造形活動に関する子どもへの指導及び援助を学ぶ、という目的②の面でも、ワークショップのリーダーを務めた学生が、ワークショップを通して学んだことや気づいたことをアイデアカード及び活動記録にまとめることで、造形活動におけるねらいや必要な援助等、実践前には把握できなかった様々な問題や課題が明らかになったとともに、次年度の開催につなげることができるだろう。

また、目的③に関しては、子どもがそれぞれの硬さの粘土によって、自分なりに遊ぶ様子を観察することができた。昨年度の調査から、「子どもが粘土で何かを成形したい場合に扱いやすい粘土の硬さ」が明らかになったが、今回のワークショップの活動からは、子どもは粘土の硬さによって自分なりに遊び方を工夫して造形活動を楽しむことができる様子を観察することができた。よって、粘土を用いた造形活動では、粘土の硬さが子どもの遊びを左右する重要なポイントであることも明らかとなった。

本来粘土遊びでは、ゆっくり時間をかけて粘土を練ることを通し、粘土の感触を感じながら活動への期待を高めることが望ましい。しかし、筆者が開催しているような、時間制限がある単発のワークショップでは十分な活動の時間を確保するために、参加する子どもや活動内容に合わせて、適した硬さの粘土を準備する必要もあるだろう。

## 2. 今後の課題

今年度のワークショップにおける子どもの遊びの様子から、子どもは粘土の硬さに応じて、遊びを変化させることがわかった。つまり、粘土の硬さ具合で子どもの遊びは大きく幅を持つことができるということである。

しかし、やはり前述した3種類の粘土を用意した環境では、硬度3の粘土に子どもが集まり、それ以外の粘土には残念ながら、あまり多くの子どもには遊びが広がらなかった。次回開催のワークショップでは、引き続き「粘土の硬さと子どもの造形活動」に焦点をあてて開催し、子どもにとって抵抗のある硬度の粘土を用いて子どもの遊びを展開させたい。

また、今回のワークショップでは、3種類のテラコッタ粘土を用いた造形活動を準備したが、参加者が幼児から小学生までと言う年齢差のあるものでは、プログラムについて行けなかったり、途中で飽きてしまったりする子どもがいた。2歳児が3名参加しており、そのうちの2名はあまりテラコッタ粘土の活動は好まなかったようで、ほとんど小麦粉粘土コーナーで過ごしていたようである。このような反省も踏まえ、次年度の開催では、プログラムの内容を年齢の異なる子どもたち同士でも楽しめるようなものに検討を加えたい。

粘土活動をテーマにした3回目のワークショップであったが、開催するたびに、粘土を用いた造形活動の面白さと可能性に気づかされる。特に硬度1以下の粘土で遊ぶ子どもの様子は、我々にとって予想外のものとなり、この活動をもっと他の子どもにも体験してもらいたい。

ワークショップには、毎年参加して下さっている親子もおり、お子さんの活動や作品の年を追うごとくの変化も大変興味深く、学生らも楽しみにしている。実施後に保護者の方にお願したアンケートの、「楽しかったです」「学生さんたちに大変お世話になりました」とのコメントからは、リーダーを務めた4年生にとっては実施の充実感と満足感、3年生にとっては次回開催に向け、大きな励みと期待を得ることになったことと思う。ワークショップに参加して下さった方々、また開催した学生たち双方が、この取組みを単なるイベントではなく「自ら参加し関わる主体性、身体と心をまるごと総動員し感じる体験、そしてグループでの相互作用や多様性の中で分かち合い刺激し合い学ぶ双方向性、を持つ学びと創造の方法」<sup>5)</sup>と捉え、さらに子どもの表現意欲をかきたてる実りあるワークショップに発展させたい。

## 注及び参考文献

- 1) 藤田知里, 「造形ワークショップ『こねこねひろば』の試み」, 『就実教育実践研究』, 7, 2014, pp.167-176.  
藤田知里, 「造形ワークショップ『ねんどぱーく』の試み」, 『就実教育実践研究』, 8, 2015, pp.173-183.
- 2) 玉井美知子監修 『子どもから学ぶ保育活動「表現」』, 学事出版, 2001.
- 3) 中川織江 『粘土遊びの心理学』, 風間書房, 2005.
- 4) 和久洋三 『遊びの創造共育法①子どもはみんなアーティスト』, 玉川大学出版部, 2006 参照.
- 5) 中野民夫, 『ワークショップ』 岩波書店, 2001, p.11.



### ③ 発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう— (硬度3)

#### アイデアカード

活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—(硬度3)	活動日 2015年 5月 23日
活動のねらい	想像を膨らませて、一人ひとりが自分の好きな形に作ることを楽しむ。	対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動内容	準備・用意・注意	準備・用意・注意
【導入】	「一番自分の好きな形に作りやすい硬さの粘土だということを説明し、「どんな形を作りやすいか」と声をかけをし、想像を膨らませて遊ぶことができるようにする。	粘土 (子どもが作りやすい硬さにしたものを用意する。) ・ビニールシート (机に止める) ・雑巾 ・粘土板 ・タオル ・霧吹き
【展開】	1. 形の作りやすさを感じる。 2. 好きな形を作る。 3. 友達がどんな形に作っているか見たり、「○○作っているお友達もいるね」と指導者が紹介したりして、一人ひとりが自由に作るようにする。 4. 「他の粘土はどんな硬さかな」と声をかけをし、粘土の硬さの違いを発見し、好きな硬さの粘土で遊ぶようにする。 5. 「違う硬さの粘土でも遊んでみてね」と声をかけをして、お気に入りの粘土を探そうようにする。  ・乾燥してきた粘土には、子どもが遊びやすいように霧吹きをかける。	
【まとめ】	自分のお気に入りの硬さの粘土を見つけたかどうかを問いつける。	

記入者 森野紀衣

#### 活動記録

活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—(硬度3)	活動日 2015年 5月 23日
活動のねらい	想像を膨らませて、一人ひとりが自分の好きな形に作ることを楽しむ。	対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動内容	準備	
進行	1. 形の作りやすさを感じる。 2. 好きな形を作る。 3. 友達がどんな形に作っているか見たり、「○○作っているお友達もいるね」と指導者が紹介したりして、一人ひとりが自由に作るようにする。 4. 「他の粘土はどんな硬さかな」と声をかけをし、粘土の硬さの違いを発見し、好きな硬さの粘土で遊ぶようにする。 5. 「違う硬さの粘土でも遊んでみてね」と声をかけをして、お気に入りの粘土を探そうようにする。 6. できた作品に名前を彫る。	7. 焼いた粘土の作品を見せ、「こんな風になるんだよ、何作る？」など声をかける。 ・通した粘土から硬い粘土や軟らかい粘土を勧めても、「汚いから嫌だ」「硬いから嫌だ」と言う子どもがいたため、無理強いしないようにする。 ・乾燥してきた粘土には、子どもが遊びやすいように霧吹きをかける。  今後の課題 ・子どもが他の硬さの粘土でも抵抗なく遊べるように工夫する。

記入者 西田美穂

### ④ 発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう— (硬度5)

#### アイデアカード

活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—(硬度5)	活動日 2015年 5月 23日
活動のねらい	「かたい粘土の感触や形の変化を楽しむ、興味を持てるようにする。」 ・粘土のかたさを知り、ダイナミックに関わる。	対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動内容	準備・用意・注意	
【導入】	「かたい粘土」 ・子どもが粘土がどれくらいかたいのか、指導者がこねて見せることで理解できるようにする。 ・粘土のかたさに合わせて自分なりに表現して、粘土遊びが楽しめるようにする。 ・お気に入りの粘土が見つけれられるように、指導者が言葉かけをする。	粘土 ・ビニールシート ・机 ・雑巾 ・タオル
【展開】	1. 粘土のかたさや感触を楽しむ。 2. こねたり伸ばしたりしながら、自分の好きな形を作る。 3. 見守りつつ、友達が作っているものを認め、同じグループの友達と共有したり、指導者が遊び方を伝えたりして粘土遊びを楽しむことができるようにする。 4. 他のかたさの粘土で遊ぶように声掛けし、それぞれのかたさの粘土の違いや感触や形の変化に気づき、かたさに応じた粘土遊びができるようにする。  指導者は子どもが粘土を口に取らないように、安全面に気を付ける。  指導者はあらかじめ硬さの度合いが5になるまで、こねて準備しておく。	
【まとめ】	「お気に入りの粘土を見つけたかどうかを言葉かけをする。」 ・片づけ。 ・作品を保存する。	

記入者 曾根朝希子

#### 活動記録

活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—(硬度5)	活動日 2015年 5月 23日
活動のねらい	「硬い粘土の感触や形の変化を楽しむ、興味を持てるようにする。」 ・粘土の硬さを知り、ダイナミックに関わる。	対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動内容	準備	
進行	1. 粘土に触れ、硬さや感触を楽しむ。 2. こねたり伸ばしたりしながら自分の好きな形を作り、指導者や周りの友達と共有する。 3. 「何を作っているの？」「これは何だと思う？」等と指導者から子どもへ問いかけ、一緒に粘土遊びを楽しむ。 4. ヘラを使って見せ、粘土遊びにより興味を持てるようにし、併せてヘラを使う体験への促しとなるようにする。 5. 他の硬さの粘土で遊ぶよう声掛けをする。 6. 片付けをする。	7. 硬い粘土に対して驚きかける(粘土を叩きつけたり足で踏んだり等というような)様子があり見られなかった為、もっとダイナミックな活動に繋げていけるように手立てを考えていく必要があると感じた。  今後の課題 ・硬い粘土に対して驚きかける(粘土を叩きつけたり足で踏んだり等というような)様子があり見られなかった為、もっとダイナミックな活動に繋げていけるように手立てを考えていく必要があると感じた。

記入者 石橋里彩子

## ⑤ 発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—（硬度1以下）

### アイデアカード

活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—（硬度1以下）	活動日 2015年 5月 22日 対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動のねらい	・柔らかい粘土を体験し、感触や形状の変化を楽しむ。	
活動内容	準備・用意・注意	
【導入】	・指が簡単に埋まっていく様子や、手のひらで握り潰すことができる様子を見せ、粘土の柔らかさに興味をもてるようにする。 ・感触や形状の変化、温度に興味をもてるように、「どんな感じがすると思う？」など、子どもとやりとりや言葉かけを工夫する。 ・粘土の硬さに合わせて自分なりに遊び方を工夫できるように「お気に入りの粘土を見つけてみよう！」と声を掛ける。	・粘土（柔らかくしたものを用意しておく） ・木の枠 ・ビニールシート ・バズルマット ・雑巾 ・タオル ・霧吹き
【展開】	1 粘土の柔らかさや温度を味わう。 2 形状の変化を楽しむ。 3 友達との遊び方を見たり、指導者が紹介したりして遊び方を広げることができるようにする。 4 他の粘土も体験してきてごらんと粘土、粘土の硬さの違いや良さに気づくことができるようにする。 ※・乾燥してきた粘土には霧吹きをかける。 ・目や口に入りそうな遊び方には注意する。	
【まとめ】	・お気に入りの粘土を見つけたかどうか聞いてあげる。	

記入者 片山優菜

### 活動記録

		実施日 2015/05/23
活動	発見！お気に入りねんど—いろいろな硬さのねんどを体験しよう—（柔らかい粘土）	活動日 2015年 5月 22日 対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動のねらい	・柔らかい粘土を体験し、感触や形状の変化を楽しむ。	
活動内容		準備
		・粘土（柔らかくしたものを用意しておく） ・ビニールシート ・雑巾 ・タオル ・霧吹き ・ビー玉 ・粘土を入れる容器 ・マット 準備したほうが良かったもの ・濡らしたタオル
進行		注意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に粘土を適切な硬さにしておく。</li> <li>粘土を洗面器から木の箱に移す。</li> <li>粘土に触り、柔らかさや温度を味わう。</li> <li>ビー玉を入れ、ビー玉探しをする。（遊びを促せるとき、柔らかい粘土が苦手な子どもが遊びに入ってきたりしやすいようにする。）</li> <li>手を粘土の中に埋めてみる。</li> <li>見立遊びをする。（「ソフトクリームに見えるね。」などと声掛けをする。）</li> <li>粘土に指で絵を描く。</li> <li>粘土を集める。</li> <li>粘土を伸ばす。</li> <li>粘土を上からそっと流すように落とす。</li> <li>手を洗う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>柔らかい粘土に触ることに抵抗がある子には指導者が楽しそうに遊び方を提示したり、お手本を見せることによって、抵抗なく粘土に触ることができるよう工夫する。</li> <li>感触や形状の変化、温度に興味を持てるように「どんな感じがする？」などと声掛けをし、工夫する。</li> <li>友達との遊び方を見たり、指導者が紹介したりして遊び方を広げられるようにする。</li> </ul> <b>今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘土の中に立ち、滑ってしまったりがいたので安全面への配慮。</li> <li>服が汚れやすいので、着替えが必要。</li> <li>飛び散りやすいことに注意が必要。</li> <li>柔らかい粘土に抵抗がある子への手立てが必要。</li> <li>ざらざらしている粘土が混ざっていたので、粘土の種類の見直し。</li> </ul>

記入者 高橋くるみ

## ⑥ 小麦粉ねんどで遊ぼう！

### アイデアカード

活動	小麦粉ねんどで遊ぼう！ （小麦粉粘土コーナー）	活動日 2015年 5月 23日 対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 11名 指導者数 14名
活動のねらい	・小麦粉粘土の感触を楽しむ。	
活動内容	準備・用意・注意	
【導入】	・小麦粉粘土を作っておく。 ・乳児等、テラコッタ粘土の活動に参加しない子どものために準備をするが、プログラム参加者の子どもが飽きてしまったり、小麦粉粘土で遊びがたりしたら、いつでも遊ぶことができるようにしておく。	【準備】 ・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・パネル ・ビニールシート ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル ・霧吹き
【準備】	・汚れてもいようにタオルを準備し、パネルを敷いてからビニールシートを敷く。 ・適度な硬さを保つため、水、小麦粉を準備しておく。	
【展開】	・小麦粉粘土をこねる。（小麦粉 500gに対し、水 200gを入れ、丁度いい硬さになるまで、水の量を少しずつ入れて調節する。） ・自分の好きな形に成形したり、型抜きで型を抜いたりして遊ぶ。 ・小麦粉粘土が乾いてきたら、霧吹きで水をかける。	
【まとめ】	・片づけ	

記入者 藤原由美子

### 活動記録

		実施日 2015/05/23
活動	小麦粉ねんどで遊ぼう！ （小麦粉粘土コーナー）	活動日 2015年 5月 23日 対象年齢 幼児～小学生 活動時間 2時間 対象人数 12名 指導者数 14名
活動のねらい	・小麦粉粘土の活動を楽しむ。	
活動内容		準備
		・小麦粉粘土（小麦粉+水） ・ビニールシート ・粘土板 ・型抜き ・タオル ・手拭き用タオル 準備したほうが良かったもの ・底の強い型抜き
進行		注意事項
<b>【導入】</b> ・乳児等、テラコッタ粘土の活動に参加しない幼児のために準備をするが、プログラム参加者の幼児が飽きてしまったり、小麦粉粘土で遊びがたりしたら、いつでも遊ぶことができるようにしておく。 <b>【準備】</b> ・汚れてもいようにタオルを準備し、ビニールシートを敷く。 ・適度な硬さを保つため、水、小麦粉を準備しておく。 <b>【展開】</b> ・小麦粉粘土をこねる。（小麦粉 250gに対し、水 100gを入れ、丁度いい硬さになるまで水の量を少しずつ入れて調節する。） ・自分の好きな形に成形、型抜きで遊ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップが始まる前に小麦粉粘土コーナーで遊ぶようにしておく。</li> <li>型抜きは幼児の手が傷つかないように角の丸いプラスチック製のものにする。</li> <li>テラコッタ粘土の活動に参加した幼児も、活動に飽きたり早めに作品を作り終えたりしたら、自由に遊ぶことができるように準備しておく。</li> </ul> <b>今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップが始まる前の小麦粉粘土の活動でくさんの幼児が集まっていたので、もう少し広いスペースと小麦粉粘土がはいれどきだ。</li> <li>テラコッタ粘土で遊んでいた幼児も、小麦粉粘土で遊びがたりしていた為、乳児だけでなく幼児も小麦粉粘土に参加しやすい雰囲気作りが必要だと感じた。</li> </ul>

記入者 岡本佳穂